

「平成18年度第1回行政改革推進市民懇話会」の概要

総務部総務課

- 1 開催日 平成18年7月3日(月)
- 2 会場 ふれあいスポーツセンター会議室
- 3 会議時間 午後4時開会、午後5時40分閉会
- 4 出席委員 25名
- 5 欠席委員 4名
- 6 市出席者 22名(堂故市長、中田助役、前辻収入役職務代理者・理事、船場企画広報室長、國本総務部長、尾崎市民部長、瀬戸建設部長、荒屋産業部長、坂本教育次長、脇消防長、廣瀬経営管理課長、濱井企画広報室次長、永田参事・総務課長、金谷財務課長、高橋行政経営班長、七分主幹、藤澤、森田、天坂、萩原、高林、杉本)
- 7 傍聴者 2名(議員2名)
- 8 協議案件

行財政健全化緊急プログラムの総括、集中改革プランの策定等について

平成15年10月に策定した行財政健全化緊急プログラムについての総括を行うとともに、平成19年度から平成21年度を計画期間とする集中改革プランの策定骨子等についての説明があり、委員との質疑応答や意見交換が行われた。

(提出資料)

- ・資料1 [行財政健全化緊急プログラムの総括について](#)
- ・資料1 - 2 [行財政健全化緊急プログラムに掲げる具体的な取組等の進行状況](#)
- ・資料2 [集中改革プランの策定について](#)
- ・資料3 [定員管理適正化計画について](#)
- ・資料4 [主な財政指標等の状況について](#)
- ・資料5 [主な行政サービスのコストについて](#)
- ・資料6 [公の施設等の管理運営の状況について](#)

9 会議録（発言の要旨）

主な発言内容（要旨）	
会長	<p>委員の皆さんには何かとご多用の折、ご出席を頂き感謝申し上げます。</p> <p>平成15年度から取り組んできた行財政健全化緊急プログラムも今年度が最終年度となったが、氷見市における行財政改革はこれからが正念場であるとする。</p> <p>国の歳出・歳入一体改革が近く決定される予定であり、国と地方の関係においても行財政改革が強く求められており、地方交付税の大幅な縮減がなされるということも聞いている。</p> <p>もともと交付税は、地方の均衡ある発展という観点で作られた制度にもかかわらず、不交付団体が6パーセントにとどまっている。私は本来なら半分ぐらいが望ましいのではないかと考えており、いびつな感じがしている。</p> <p>今までの有利な財源をちらつかせる国の政策と地方がそれに飛びつくという図式でだんだんと制度が乱れてきたのではないかと考える。</p> <p>こうした中、配分基準が複雑であるということで、人口と面積だけで交付額を決めたらどうかということであるが、そうすると大変なことになると思う。</p> <p>地方交付税は、地方が一定水準の行政サービスを確保するためにはどうしても必要な制度である。地方共有税も考えているようであるが、いずれにしても、地方にとって不公平感の無いようにしていただきたい。</p> <p>霞ヶ関の権限縮小につながる問題でもあり、国と地方の対立だけではなく、省庁間の攻防が展開されるのではないかと思う。</p> <p>今後どうなるかわからないし、不確かな部分が多いわけではあるが、氷見市にとって今よりも良くなるということは考えにくいので、さらに厳しい改革案が必要である。</p> <p>そうしたことから、平成19年度から平成21年度までの集中改革プランを策定しなければならないという状況になってきた。</p> <p>市民病院の経営問題や平成19・20年度に公債費償還のピークを迎えることなど、数多くの行政課題を抱えている。</p> <p>単なる数字合わせや帳尻合わせの計画ではなく、どんな氷見市にするのか、氷見市の将来像を見据えた全市民的な議論が必要である。</p> <p>委員各位の建設的なご意見、活発なご議論をお願いしたい。</p> <p>（その後、委員交代に伴う新委員6名の紹介）</p>
市長	<p>昨年の3月以来の開催となったが、委員の皆様には、何かとご多用のところ、本日の会議にお集まりを頂き、感謝している。</p> <p>市では、皆様からご報告を頂いた提言に沿って、平成15年度から、持続可能な簡素で効率的な行政体を目指した「行財政健全化緊急プログラム」に取り組んできた。</p> <p>市民、議会、市職員の協力のもと、これまでのところ、人件費の抑制措置や投資的経費の圧縮などの取組みにより、計画期間中の4年間で約58億円に上ると予想された財源不足は、概ね解消が図られる見込みとなった。</p> <p>しかしながら、財政環境は年々厳しさを増しており、今後は、国と地方の財政再建という大きな流れの中で、地方交付税の削減も国のほうで議論されており、前よりは減るということも想定しておかなければならない。</p> <p>地方も交付税が削減される議論を黙って見ているわけにはいかない。地方固有の財源であるということ強く主張していかなければならない。</p> <p>国の財政再建の中での削減の動きを想定しておかなければならない。</p> <p>また、会長のお話にあったように、市の財政は、過去の借入金の償還がピークを迎える平成19年度から20年度にかけて、最も苦しい時期にさしか</p>

かることになる。

併せて、新病院の建設を含めた市民病院の方向を決定していくことが、当面の市政の最重要課題である。

引き続き厳しい局面にある氷見市であるが、来年3月には能越自動車道の氷見インターが開通するなど、市を取り巻く社会資本の骨格が整備されつつあり、市の将来は、私たちがどう考え、どう物事に取り組んでいくかに懸かっているのではないかと思う。

いまこそ、氷見の良さを発揮して、交流人口の拡大など、大きく飛躍するまちづくりのチャンスのあるときであるという積極的な気持ちで、市民の皆様とともに取り組んでいきたいと思っている。

当面は厳しい舵取りを迫られることになるが、事業や施策の優先度を見極め、限られた財源の重点化を図る一方、民営化をはじめとする行政の簡素化・効率化に取り組み、収支の均衡が保たれるよう、ブレーキとアクセルをうまく踏み分けながら、市政を推進していきたい。

今日の会議では、緊急プログラムの進行状況や、新たな集中改革プランの策定などについて、ご説明を申し上げ、委員の皆様から、率直な評価や今後の市政改革の方向性等について、お考えをお聞かせ頂きたいと思っているので、どうか宜しく願い申し上げます。

会長
行政経営班長
会長
委員

事務局からの資料説明をお願いする。

(資料説明)「資料1～6」

これから質疑に入りたい。

今までの行財政の健全化の努力に敬意を表したい。

今後について2点質問がある。

「資料4」の財政比較分析表のレーダーチャートは現在の数値で表示されているが、今後の人口推計等、将来予測の数値も示さなければ、より一層の健全化につながらないと思う。

人員削減計画については大変な努力をされていると思うが、歳入歳出については必ず国の予算が決まらないとどうしようもないという話になってしまう。

それはそれとして、市の運営に関する歳出はここでこのくらいであると提示すべきではないか。歳入については税収その他の話があると思うが、企業の立場では当然そうすべきであると思う。国や県の交付金がなければ歳出計画が立てられないというのはおかしい。まだまだ親方日の丸的なところがあるのではないかと。市長のお考えを伺いたい。

市長

これは決して甘えの部分だけではなく、国と地方の制度にかかわる問題であると考えている。

全国どこにいても一律の行政サービスを受けられるという基本的な権利が憲法でうたわれており、国から地方に義務付けられているサービスもかなりある。そのことの議論を抜きに国では交付税を削減しようとしている。

国全体として財政状況が厳しいので止むを得ない議論ではあると思うが、国が何を、地方がどこまで行政サービスに責任を持ってやるか、そこで税をどう配分するのかという議論が途中抜けている。

相当頑張った結果、氷見市の借金は300億以下になろうとしている。このうちの50数パーセントは過去に国の景気対策で「こういう事業をやりなさい、後で交付税でカバーしますよ。」という、氷見市のように財政力が弱い自治体も社会資本を整備しなさいという政策誘導によるものである。

全国一定のバランスをとるという意味もあり、国税が2/3を集め、地方税が1/3しか集められていないという税体系の中で、この議論抜きに歳出削減という議論だけをして空虚なものになってしまうと思う。

	<p>財政比較の指標の数値については平成16年度決算ベースのものであり、見込めるだけの将来予測をこれから策定する集中改革プランに盛り込んでいきたいと考えている。</p>
委員	<p>もしも最悪財政再建団体になった場合、こういったものが削減・規制されるのかを説明して欲しい。</p> <p>こういった場合の財政規模のターゲットを明確にして欲しい。予想は可能か。</p>
助役	<p>財政再建団体の指定は、債務の規模によるものである。</p> <p>単独事業は、まずゼロになる。乳幼児医療費の単独助成などは国が認めないのではないかと思う。</p> <p>補助事業以外の市単独事業を除けば、財政規模がこれくらいであると想定できるのではないかと考える。</p> <p>道路の新規事業もできなくなり、維持管理のみとなる。</p> <p>給与費にも非常に厳しい切り込みが必要になると考える。</p>
財務課長	<p>夕張市の例もあるが、標準財政規模の20パーセントの実質収支の赤字を出すと財政再建団体に指定される。</p> <p>当市の場合では、標準財政規模が約130億であるので、26億の赤字を出すと財政再建団体になる。</p> <p>単独事業のカットに加え、公共料金の値上げや増税もしなければならない。</p>
委員	<p>歳入増はどのようにするのか。資料を見ても歳出の削減ばかりが目につく。</p>
助役	<p>行政は一般的に歳出の削減のほうが得意のようである。</p> <p>午前で開催された議会の行政改革特別委員会でも議論になったが、歳入増に着目していく必要がある。</p> <p>今のところ、市の保有財産の売却を歳入増の項目として挙げている。</p> <p>そのほか、まだ数字に現れるような効果は出ていないが、大きな視点として、北大町市有地の活用によるまちの活性化と税収の確保を図ることや、企業誘致等により雇用増を図るということに現在力を入れている。</p> <p>富山県では森林の保全整備に取り組むための1人当たり500円の新税を導入するようであるが、行政としては重要な視点であると考えている。</p> <p>受益者負担の適正化も集中改革プランに盛り込むべきと考えている。</p>
委員	<p>やはり先ほどの話のように、収入を増やすことが一番大切である。</p> <p>いくら経費を削減してもたいしたことはできないと思う。</p> <p>企業のやり方ではあるが、会社は合併することによって利益率が大きく違ってくる。</p> <p>森林保全のための税金は、個人から取り上げるだけで、生み出したお金ではない。県民に負担をかけているだけである。</p> <p>そういうやり方ならば、極端ではあるが、市役所が仕事をしないで市民に負担をかけないというやり方のほうが良い。</p>
助役	<p>経費については、そういう観点も参考にしたい。</p>
委員	<p>年々、子どもにかかる医療費よりも、高齢者にかかる医療費が増加傾向にある。そのため、老人保健医療費を抑制するためには、この度見直された介護保険の介護予防の部分をどれだけ充実させるかということが必要であると考えている。</p> <p>高齢者福祉を見直していかなければならないと思うが、年々増加する高齢者の医療費を抑えるにはどのようにすればよいと考えているのか。</p> <p>医療だけでなく、保健、介護という立場で新たに見直す必要があると思う。</p>
助役	<p>老人と子どもの給付のアンバランスがあり、老人保健は今後ますます増加する。</p> <p>今、県単独医療費助成制度の見直しについて議論されているが、その方向</p>

	<p>性について注目している。</p> <p>今後は、負担のバランスや、経費のかからない健康づくり、いわゆる P P K (ピン・ピン・コロリ) 政策についても考えながら進めていきたい。</p>
委員	<p>小泉厚相のときに、長野県の老人が元気で入院期間も短く医療費がかからないということを参考に P P K 運動の展開を考えたようであるが、K (コロリ) は具合が悪いので取り止めたようだ。</p> <p>そういった医療費の削減につなげる姿勢は大切であり、是非、氷見市でも P P K 作戦を進めていただきたい。</p>
委員	<p>財政状況が厳しいということはよくわかる。</p> <p>収入を増やすか、支出を減らすかしかないが、収入を増やすことのほうがより難しいと考える。</p> <p>先ほどの夕張市の話は、今のところ特異なケースであると思うが、今の政策が進むと今後同様の市町村が数多く出てくるのではないかと思われる。</p> <p>類似都市と細かく比較して対策を立てなければならぬのではないか。</p> <p>そういう資料を提出していただけるものかどうか検討して欲しい。財政再建団体を論ずるのに夕張市だけではわかりにくい。</p> <p>また、私も今現在の財政状況についてはわかったが、5年後はどうか、将来はどうなるのかを知りたい。「資料4」のレーダーチャートの将来負担の健全度の項目の中身を知りたい。</p>
助役	<p>将来負担の健全度は、借金を単純に人口で割った1人当たり地方債現在高であり、氷見市の一番の弱点のようにも見える。</p> <p>しかし、地方債の中身は、各自治体によって異なり、当市は8割が交付税で充当される辺地債の割合が高いので、そういう部分を考慮すると、平均に近づくのではないかと考える。</p>
市長	<p>実際、氷見市は、行財政健全化緊急プログラムの期間で、350億を300億に減らす努力をしてきた。</p> <p>これだけ厳しい状況の中で債務を減らしてきた自治体は少ないと思う。</p>
委員 市長	<p>辺地債は、今後も削減対象にならない別格のものであるのか。</p> <p>別格ではないと思われる。過去の約束を反故にしようとする議論が国で行われており、非常に危険なことだと考えている。</p> <p>また、国と地方の仕事の分担や役割の議論を抜きにして交付税の見直しを考えることも危険であると思う。</p> <p>市長会や知事会等を通じても強く訴えている。ここ2年ぐらいは国の財政再建を目指す財務省との議論の戦いになっている。</p> <p>助役の説明のように、借入金の54パーセントは国が交付税で責任を持つものが含まれている。</p> <p>国の借金は800兆円で国民1人当たりでは700万円、その他のものも合わせると1,000兆円とも言われている。地方の借金残高だけで将来負担の健全度を測るのはおかしいのではないかと考えている。</p>
委員	<p>施設の管理運営の状況をまとめた資料もいただいたが、施設の維持管理等についても注目すべきである。</p> <p>日本基礎技術からニチユーシーサイドクラブの施設を譲渡してもらったが、維持管理費が多くかかるのではないかと、行政の負担になるのではないかと考える。</p> <p>施設の維持管理に関するわかりやすい資料を提出して欲しい。公園などは市民にも維持管理のための協力を求めることも可能ではないかと考える。</p> <p>学校については、これからも統合があるかと思うが、6校統合に伴い廃止された小学校の跡地利用の中期ビジョンも必要ではないか。</p> <p>今回の統合をモデルケースとして、今後も小規模校は解消されると思うが、</p>

教育はお金の問題ではない。学校が無くなれば、過疎化が進展し、森林の荒廃などの様々な影響が出てくる。できるだけ多方面にわたる調査をすべきである。

次回は具体的な資料に基づいた中身の濃い議論をしていきたい。

市長

7月10日から8月末日まで、二チユー施設の活用案を公募する。できるだけ効率的な活用ができるよう、市民の力もお借りしたい。

学校統合は決して行革ではない。子どもたちの教育環境の整備を第一に考え、一定規模が必要であると判断した。その次に建替の費用等について考えた。

今後、自治振興委員の皆さん等に地域柄、歴史等を踏まえて、氷見市全体の学校像を議論していただくことにもなっている。

学校は、県の負担が多い施設であって、学校統合は市の立場からは行革とは考えていない。

また、私は、今回の統合をモデルケースという言い方はしていない。最善の環境整備を考えて実施したのであって、今回の統合に倣って統合を進めていくという考えは無い。

会長

今後の懇話会の進め方については、必ず全体会を開催して議論することではなく、2つある部会（行政健全化部会、補助金等審査部会）できめの細かい議論を進めていきたい。

部会への参加は事務局に申し出ていただくことにすればよいか。

総務課長

部会のメンバーは会長に指名していただくことになっているので、よろしくをお願いしたい。

委員

人口・面積で配分するという国の新型交付税の話が出てきているが、その基準で氷見市の試算をすると交付税はどうなるのか。

助役

6月議会の提案理由で市長が申し上げたように、14億円の影響が出るものと思われる。

しかし、最近では小規模自治体に対する影響が大き過ぎるという意見や、段階的に行うべきであるという意見、また、その内容も過去からの事業や各自治体の行政ニーズに照らし合わせながら実施すべきであるという意見も出てきており、だんだんとトーンダウンしているように感じている。

そうかといって、国の財政が厳しいことは事実であり、何らかの手が加えられるものと思っている。

委員

資料には、税収の推移についても書かれているが、個人市民税、法人市民税、固定資産税等の内訳のわかる資料を提出していただきたい。

助役

先ほど依頼のあった資料とあわせて提出する。

会長

今後も意見等がある場合は、事務局に伝えていただきたい。

市長

いつの時代も厳しいとは思いますが、厳しいときを乗り越えてこそ、いろんなことが進化するし、物事が進んでいくものと思う。

何とか計画を進めながら、氷見の良さを生かすチャンスのあるときであると思っている。縮み志向だけではなく、ステップするためにもう一段姿勢を低くするぐらいのつもりで頑張っていきたいので、委員各位のお力をお借りしたい。

委員の皆さんのご意見が、ややもするとぬるま湯に浸かっていた私たち職員、そして市民の皆さんに対しても良い刺激になる。

行財政健全化緊急プログラムの数値目標である58億円の財源不足の解消は当初は非常に困難とされていたが、ここまで来ることができた。

委員の皆様には感謝申し上げますとともに、今後ともよろしくお願いいたします。

会長

予定終了時刻となった。長時間にわたっての議論に感謝申し上げます。

次回は、8月2日（水）午後4時からの開催としたい。詳細については、

後日事務局から案内させる。
本日はこれをもって閉会とする。